

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業 いきいき子クラブ				公表日	令和8年2月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	活動や年齢によって部屋を固定しています。ホールが広い為、粗大運動の活動には良いですが、感覚過敏があり視覚、聴覚的に敏感な児は集中がそれやすい事があります。その為、現在はアコーディオンカーテンで空間を遮ったり、別室で活動を行ったりすることで集中して活動に参加できる環境を整えています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3	利用児の様子によって人数を調整しています。マンツーマン必要である場合は対応をしたり、見守り支援のできる場合は距離を保ったりと、臨機応変に調整をしています。	長期休暇時に配置数以上必要だと思われる時がありますが、長期休暇中のアルバイトやボランティアを募集して、安心安全に活動が出来るよう対応しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		活動、食事、帰りの会と部屋を固定し構造化したことで、行動の切り替えがスムーズになっています。わかりやすいよう、各部屋に名前を付けています。視覚優位の児が多い為、物を少なくすることで、視覚から入る刺激を少なくし、活動に集中できるよう環境整備を		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	危険な場所はカードを貼り、視覚的にわかるよう工夫しています。部屋を活動に合わせ、使い分けのようにしています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		活動に全て部屋を使用している為、クールダウンの部屋が不足することがありますが、段ボール等で安心できる場所をつくり、クールダウンができるよう工夫しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	3		職員同士の勤務時間帯が合わないことがあり、上手く伝達できないことがあります。その為、ホワイトボード等活用し上手く伝達できるよう改善していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者の方に評価表の記入をご協力いただいています。改善につなげるため会議をおこない、その内容をホームページにて公表しています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		月一回、情報共有会議を行っています。	更に支援の質の向上を目指していけるよう、OJTを検討していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	法人内研修やばたきネット、東部圏域で行われている研修に参加しています。従業員が研修に参加しやすい時間帯など考慮して行っています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		支援プログラムはホームページにて公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		保護者の方にアセスメントを記入していただき、参考にし計画を立てています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		毎月モニタリング会議を行い、見立て、検討しながら計画を立てています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		意識すべき目標を記入できるよう、日誌の記入方法を改善しました。	標準化されたツールを用いるまでには至っていない為、今後活用していけるよう準備をしています。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	曜日で目的別に振り分けており、その目的別に内容を立案しています。月案表を作成し、職員間で共有しやすいように考案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		個別療育では隔週で目的を変えて課題を提供しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		ご利用児の様子によって、お友達を意識できるように集団活動を実施しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	活動前に申し送りをおこなっています。その日の療育活動の内容や目的をホワイトボードに記入することで、職員間で共有できるよう工夫しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	職員間で気になった事を共有し、経過を追って見るようにしています。職員の勤務形態が違う為、支援終了後には難しいですが、前日に情報共有をしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		支援後には必ず記録をとっています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		今年度は、保健師さんに来所していただき、歯みがき指導や食育指導等していただきました。関係機関で情報共有会議をおこなったり、他施設(リハビリ)への見学を同席させてもらったりと一貫性のある支援ができるよう工夫しています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		定期的なモニタリング会議で相互理解が出来るようにしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		保護者の方に了解を得て、情報提供書を作成し提出をしています。また、必要に応じて情報提供の会議をおこなっています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		質の向上へつながるよう、施設支援を活用し、助言等いただく機会を設けています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	5		現在、市内のこども園、幼稚園と併用利用されている方が多い為、交流する機会は設けていません。社会性を伸ばしていく為に、戸外活動や公共の場(図書館等)を活用しています。また、その他ご希望があれば取り入れていきたいと思っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	2		

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	毎年一回ペアレントプログラムを開催しています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2	契約時に説明をおこなっています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1	保護者の方に記入していただいたアセスメントシートを参考にし計画を立案しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	1	立案時、モニタリング時に説明をおこなっています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		お話を聞いて即答できない時は、職員間で共有して返答しています。連絡ノートや電話を活用し対応しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		毎年一回、保護者会をおこなっています。またペアレントプログラムもおこなっています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		お話を聞いて即答できない時は、職員間で共有して返答しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月おたよりを発行、ホームページに掲載しています。おたよりで、月行事予定も掲載しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2	秀溪まつりを開催し、地域の方々との交流の場を設け、地域に開かれた事業運営ができるよう努めています。活動で図書館等公共の場を利用させてもらっています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		定期的に地震、火災を想定して、避難訓練を行っています。また、長期休暇時には放デイとの合同の訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		契約時にてんかん発作やアレルギーの有無を確認しています。保護者の方と共有し、アレルギー除去食で対応をしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画に基づき、定期的に避難訓練(地震、火災、通告訓練)を行っています。また、警察官の方に来所いただき安全講話をおこなってもらっています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画を作成し、定期的に見直しをしています。作成した計画表は玄関の掲示板に掲示しています。避難訓練をおこなった時は、連絡ノートやおたよりにてお知らせをしています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	随時、状況報告、対応をおこなっています。	記録に至っては振り返ることが不十分である為、今後情報共有会議時に振り返りをおこなっていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	法人内で虐待防止の研修をおこなったり、虐待防止チェックリストの記入をしたりと支援の振り返りが出来るようにしています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	3			